

令和元年度（平成31年度）「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 平成31年4月16日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

(1)教科に関する調査

○調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～6学年> 国語、社会、算数、理科

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立荏原第五中学校

<p>7年</p>	<p>(1) 定着状況の概要</p> <p>全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。漢字の読みは区の正答率と差がほとんどないが、書きでは4問中3問が目標値を下回る結果になった。また、「調べたことをもとに資料を書く」では全問が区の正答率を越えている。自信をもって自分の言葉で表現できる生徒が多いと考えられる。</p> <p>(2) 具体的な課題</p> <p>漢字の書き取りに課題が見られた。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること</p> <p>①授業や家庭学習での漢字の書き取りの量の不足。 ②部首の意味や音を理解していない。</p> <p>(4) 課題解決のための方策</p> <p>①については授業や家庭学習で毎日少しずつ書く習慣をつける。また、小テストを定期的に行う。 ②については漢字の部首や読みの法則を理解できるよう工夫をする。</p> <p>(5) 次年度の数値目標</p> <p>「漢字を書く」の全ての問題で正答率60%を越える。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校で学習した漢字を読むことができる。</td> <td>77.5</td> <td>86.8</td> <td>82.5</td> </tr> <tr> <td>小学校で学習した漢字を書くことができる。</td> <td>45.0</td> <td>37.3</td> <td>48.1</td> </tr> <tr> <td>調べたことをもとにして、伝えたいことが明確になるように書くことができる。</td> <td>55.0</td> <td>61.3</td> <td>56.2</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	小学校で学習した漢字を読むことができる。	77.5	86.8	82.5	小学校で学習した漢字を書くことができる。	45.0	37.3	48.1	調べたことをもとにして、伝えたいことが明確になるように書くことができる。	55.0	61.3	56.2
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率															
小学校で学習した漢字を読むことができる。	77.5	86.8	82.5															
小学校で学習した漢字を書くことができる。	45.0	37.3	48.1															
調べたことをもとにして、伝えたいことが明確になるように書くことができる。	55.0	61.3	56.2															
<p>8年</p>	<p>(1) 定着状況の概要</p> <p>正答率で、目標値、全国平均を上回り、良好な状況である。</p> <p>(2) 具体的な課題</p> <p>文法・語句に関する知識と登場人物の心情と描写で課題が見られた。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること</p> <p>知識問題など記憶の定着を必要とするものに課題があることから、反復量が足りていないと考えられる。登場人物の心情等については、昨年度からの課題であり、継続して指導していく必要がある。</p> <p>(4) 課題解決のための方策</p> <p>心情について授業で扱う際には、その人物の行動や、出来事を細かく発問することで、確認を丁寧にする。</p> <p>(5) 次年度の数値目標</p> <p>課題となった領域において、目標値の全国平均を上回る。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文節の関係について理解している</td> <td>65.0</td> <td>63.8</td> <td>68.2</td> </tr> <tr> <td>登場人物の描写を比較して特徴をとらえることができる</td> <td>40.0</td> <td>35.0</td> <td>39.4</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	文節の関係について理解している	65.0	63.8	68.2	登場人物の描写を比較して特徴をとらえることができる	40.0	35.0	39.4				
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率															
文節の関係について理解している	65.0	63.8	68.2															
登場人物の描写を比較して特徴をとらえることができる	40.0	35.0	39.4															
<p>9年</p>	<p>(1) 定着状況の概要</p> <p>文章の読み取りは説明的文章・文学的文章ともに全国平均正答率を越えている。しかし、作文については全国・区平均を下回っている。</p> <p>(2) 具体的な課題</p> <p>文章を書くことに苦手意識をもっている生徒が少数いる。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること</p> <p>①文章を読み取る内容の授業が多く、「書く」内容の授業が少ない。 ②自分の考えを表現することに対して周りの反応などが気になる。</p> <p>(4) 課題解決のための方策</p> <p>①は「書く」授業を増やす。その中で文章を書くための基本的な形を身に付けさせる。 ②は表現する楽しみや他の生徒の意見を知ることの喜びを感じさせる。伸び伸びと表現できる授業の雰囲気をつくる。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>説明文の内容を読み取る</td> <td>56.3</td> <td>61.8</td> <td>59.0</td> </tr> <tr> <td>文学作品の内容を読み取る</td> <td>63.8</td> <td>73.2</td> <td>67.4</td> </tr> <tr> <td>作文</td> <td>66.0</td> <td>60.8</td> <td>69.3</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	説明文の内容を読み取る	56.3	61.8	59.0	文学作品の内容を読み取る	63.8	73.2	67.4	作文	66.0	60.8	69.3
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率															
説明文の内容を読み取る	56.3	61.8	59.0															
文学作品の内容を読み取る	63.8	73.2	67.4															
作文	66.0	60.8	69.3															

<p>7年</p>	<p>(1) 定着状況の概要 全国平均正答率とほぼ同程度である。</p> <p>(2) 具体的な課題 歴史的分野では「安土桃山時代」と「幕末」、地理的分野では「地球温暖化」が、全国平均に比べて少し低くなっている。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること 単純に重要語句を覚えているだけで、語句の意味を理解していないことが原因だと考えられる。また、漢字の間違えが多い。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 ペアワークやワークシート、ICT を活用して重要語句の意味を考えさせたり発表させたりすることで、理解の定着を図る。また、難しい漢字の場合は大きく板書することで意識をさせるようにする。</p> <p>(5) 次年度の数値目標 全国正答率を超えるようにする。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>織田信長の政治について理解している</td> <td>65.0</td> <td>45.1</td> <td>60.8</td> </tr> <tr> <td>黒船が来航した場所を指摘することができる</td> <td>55.0</td> <td>47.1</td> <td>55.0</td> </tr> <tr> <td>地球温暖化について理解している</td> <td>80.0</td> <td>77.9</td> <td>86.8</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	織田信長の政治について理解している	65.0	45.1	60.8	黒船が来航した場所を指摘することができる	55.0	47.1	55.0	地球温暖化について理解している	80.0	77.9	86.8
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率															
織田信長の政治について理解している	65.0	45.1	60.8															
黒船が来航した場所を指摘することができる	55.0	47.1	55.0															
地球温暖化について理解している	80.0	77.9	86.8															
<p>8年</p>	<p>(1) 定着状況の概要 昨年度より校内正答率が0.8ポイント下がり、全国正答率を大幅に下回った。</p> <p>(2) 具体的な課題 歴史的分野では「中世の日本」、地理的分野では「地球の姿をとらえる」で特に全国平均を下回っている。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること 資料の読み取りに対する苦手意識が強い傾向にあると考えられる。また、平安時代の知識・理解が不足していると考えられる。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 資料の読み取りについて、ペアワークやグループワークを活用したり、ワークシートを活用して取り組ませるなどを行い、資料の読み取りに慣れさせていく。また、武士の時代と貴族の時代の比較を通して平安時代の基礎の定着を図っていく。</p> <p>(5) 次年度の数値目標 来年度は、全国平均を少しでも上回るようにする。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>世界の地域区分を理解している</td> <td>70.0</td> <td>35.0</td> <td>73.0</td> </tr> <tr> <td>時代区分について習得している</td> <td>70.0</td> <td>36.3</td> <td>62.9</td> </tr> <tr> <td>中世の諸産業の発達について、定期市を理解している</td> <td>65.0</td> <td>48.8</td> <td>73.0</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	世界の地域区分を理解している	70.0	35.0	73.0	時代区分について習得している	70.0	36.3	62.9	中世の諸産業の発達について、定期市を理解している	65.0	48.8	73.0
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率															
世界の地域区分を理解している	70.0	35.0	73.0															
時代区分について習得している	70.0	36.3	62.9															
中世の諸産業の発達について、定期市を理解している	65.0	48.8	73.0															
<p>9年</p>	<p>(1) 定着状況の概要 3年生社会を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況です。知識・理解よりも活用の力の方が強い。</p> <p>(2) 具体的な課題 歴史的分野では、「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」、地理的分野では「世界と比べた日本の地域的特色」に課題がある。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること インプット中心の授業展開になると知識の定着率が下がる傾向にある。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 課題の単元は今年度中に復習を行う。単元テストを積極的に取り入れていく。授業に関しては、より活用型の授業を取り入れ、知識を活用することで知識の定着を目指していく。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>複数の資料から、豊臣秀吉の統一事業について把握することができる。</td> <td>70.0</td> <td>52.4</td> <td>70.6</td> </tr> <tr> <td>16世紀のキリスト教に関連する史実について判断することができる。</td> <td>40.0</td> <td>23.2</td> <td>38.9</td> </tr> <tr> <td>日本各地を結ぶ交通について、特色をふまえて考察することができる。</td> <td>70.0</td> <td>55.2</td> <td>72.1</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	複数の資料から、豊臣秀吉の統一事業について把握することができる。	70.0	52.4	70.6	16世紀のキリスト教に関連する史実について判断することができる。	40.0	23.2	38.9	日本各地を結ぶ交通について、特色をふまえて考察することができる。	70.0	55.2	72.1
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率															
複数の資料から、豊臣秀吉の統一事業について把握することができる。	70.0	52.4	70.6															
16世紀のキリスト教に関連する史実について判断することができる。	40.0	23.2	38.9															
日本各地を結ぶ交通について、特色をふまえて考察することができる。	70.0	55.2	72.1															

<p>7年</p>	<p>(1) 定着状況の概要 教科全体だけでなく、「基礎」「活用」においても全国正答率を上回った。「関数」については、引き続き課題が見られる。</p> <p>(2) 具体的な課題 「単位あたりの値を求める式がどのような大きさを求める式であるかを説明する」や「反比例についての表を読み取り、表にあてはまる数を求める」、「円周の長さを求める式を選ぶ」項目について課題が見られる。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること 数量の関係や図形を構成する要素に着目し、目的に合った表現方法を用いて計算の仕方などを考察することにつまずきがあると考えられる。また、解決が困難な問題に対して、無解答率が高い。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 数量の関係に着目し、表、式を用いて考察及び表現することができるようにする。また、図形の性質を理解し、図形の計量を正しく考察できるようにする。そして、既習事項を生かして課題を解決させる学習を繰り返し行い、知識や技能の習熟・熟達にとどまらず、自ら課題に取り組む姿を育む。</p> <p>(5) 次年度の数値目標 課題が見られる項目について、全国正答率と同等の正答率を目標とする。</p> <table border="1" data-bbox="794 241 1465 416"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>単位あたりの式の説明</td> <td>45.0</td> <td>39.7</td> <td>47.9</td> </tr> <tr> <td>反比例についての表を読み取り</td> <td>75.0</td> <td>74.5</td> <td>77.5</td> </tr> <tr> <td>円周の長さを求める式の選択</td> <td>55.0</td> <td>54.9</td> <td>57.8</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	単位あたりの式の説明	45.0	39.7	47.9	反比例についての表を読み取り	75.0	74.5	77.5	円周の長さを求める式の選択	55.0	54.9	57.8				
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率																		
単位あたりの式の説明	45.0	39.7	47.9																		
反比例についての表を読み取り	75.0	74.5	77.5																		
円周の長さを求める式の選択	55.0	54.9	57.8																		
<p>8年</p>	<p>(1) 定着状況の概要 教科全体だけでなく、「基礎」「活用」においても全国正答率を下回った。特に、「関数」「空間図形」において課題が見られる。</p> <p>(2) 具体的な課題 「比例の式から比例のグラフをかく」や「反比例の関係を理解し、その式を求める」、「合同な底面と等しい高さの柱体と錐体の体積の関係を理解する」、「立体の投影図を理解する」項目について課題が見られる。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること 数量の変化や対応に着目して関数関係を見い出すことや、図形を構成する要素や図形間の関係に着目して図形の性質を考察することにつまずきがあると考えられる。また、解決が困難な問題に対して、無解答率が高い。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 式、グラフの関連に着目しながら、基本的な関数の特徴を理解させる。また、模型を用いたり実験による測定を行ったりしながら図形の性質を、実感を伴って考察できるようにする。そして、既習事項を生かして課題を解決させる学習を繰り返し行い、知識や技能の習熟・熟達にとどまらず、自ら課題に取り組む姿を育む。</p> <p>(5) 次年度の数値目標 課題が見られる項目について、全国正答率と同等の正答率を目標とする。</p> <table border="1" data-bbox="794 902 1465 1115"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>比例の式からグラフをかく</td> <td>40.0</td> <td>22.5</td> <td>41.6</td> </tr> <tr> <td>反比例の関係と式の理解</td> <td>45.0</td> <td>37.5</td> <td>48.9</td> </tr> <tr> <td>柱体と錐体の体積の関係</td> <td>55.0</td> <td>46.3</td> <td>58.7</td> </tr> <tr> <td>三角錐の投影図の理解</td> <td>55.0</td> <td>45.0</td> <td>56.9</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	比例の式からグラフをかく	40.0	22.5	41.6	反比例の関係と式の理解	45.0	37.5	48.9	柱体と錐体の体積の関係	55.0	46.3	58.7	三角錐の投影図の理解	55.0	45.0	56.9
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率																		
比例の式からグラフをかく	40.0	22.5	41.6																		
反比例の関係と式の理解	45.0	37.5	48.9																		
柱体と錐体の体積の関係	55.0	46.3	58.7																		
三角錐の投影図の理解	55.0	45.0	56.9																		
<p>9年</p>	<p>(1) 定着状況の概要 教科全体だけでなく、「基礎」「活用」においても全国正答率を上回った。</p> <p>(2) 具体的な課題 「多数回の試行による相対度数から確率を求める」や「1次関数を活用して具体的な事象を捉える」項目に課題が見られる。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること 多数回の試行や1次関数の活用を通して、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取ったり、事象の変化や対応の様子を考察したりすることにつまずきがあると考えられる。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 実際に多数回の試行をするなどの経験を通して確率の意味を、実感を伴って理解できるようにする。また、目的に応じて式、グラフを適切に選択しながら具体的な事象を関数関係として捉え、考察及び予測することができるようにする。</p> <table border="1" data-bbox="794 1688 1465 1854"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>多数回の試行の確率の意味</td> <td>70.0</td> <td>51.2</td> <td>70.0</td> </tr> <tr> <td>図形の辺上の動点と面積の関係</td> <td>30.0</td> <td>26.4</td> <td>25.0</td> </tr> <tr> <td>グラフを延長して読み取る</td> <td>30.0</td> <td>24.0</td> <td>16.3</td> </tr> </tbody> </table>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	多数回の試行の確率の意味	70.0	51.2	70.0	図形の辺上の動点と面積の関係	30.0	26.4	25.0	グラフを延長して読み取る	30.0	24.0	16.3				
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率																		
多数回の試行の確率の意味	70.0	51.2	70.0																		
図形の辺上の動点と面積の関係	30.0	26.4	25.0																		
グラフを延長して読み取る	30.0	24.0	16.3																		

<p>7年</p>	<p>(1) 定着状況の概要 校内平均が全国平均を5%ほど下回っている。難易度の低い(目標値が高い)出題に対しては比較的高い正答率を示しているが、難易度の高い(目標値の低い)出題に対して正答率が大きく下回っている。特徴的に、思考力を問う問題や表現力を必要とする問題で正答率が低い。</p> <p>(2) 具体的な課題 身に付けた知識を活用すること。論理的思考や表現力に課題がある。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること 学習の仕方が覚えること中心になってしまい、既習事項を基にして新たなことにたどり着く経験が少なかったと考えられる。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 既習事項を基にして授業中の発問を工夫し、論理的に思考する機会を増やしてノートに考えをまとめさせる。また、授業の中で思考の流れを説明し、論理の組み立て方を繰り返し説明して定着を図る。</p> <p>(5) 次年度の数値目標 全国平均の値に近づくよう、全国正答率から-1%よりも高い値を目指す。</p>
<p>8年</p>	<p>(1) 定着状況の概要 校内平均が全国平均を6%ほど下回っている。物理分野、化学分野の出題に対して正答率が低い傾向が見られる。また、基本的な知識の定着度もあまり高くなく、その結果、知識の活用でも正答率が低めになっている。</p> <p>(2) 具体的な課題 基本的な知識の定着と、論理的に思考すること。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること 授業で学んだ物質や自然現象が、普段の生活とうまく結びつけられていないことが考えられる。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 既習事項を基にして授業中の発問を工夫し、論理的に思考する機会を増やしてノートに考えをまとめさせる。また、授業の中で思考の流れを説明し、論理の組み立て方を繰り返し説明して定着を図る。</p> <p>(5) 次年度の数値目標 全国平均の値に近づくよう、全国正答率から-3%よりも高い値を目指す。</p>
<p>9年</p>	<p>(1) 定着状況の概要 経年の変化では、昨年度に比べて標準スコアが2.2上昇した。しかし、全体的には全国平均を下回る結果となっている。正答率40%を切った問題に関しては、誤答の方が正答を上回る問題が見られた。校内平均を下回る生徒の学力向上が課題である。</p> <p>(2) 具体的な課題 知識の活用が課題である。</p> <p>(3) 課題の原因として考えられること 日常生活との関連性を見いだせない。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 スモールステップを踏み、段階的な課題設定をしながら定着を図る。 教師の範示実験を減らし、生徒の実験の時間を確保する。</p>

出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率
店内の空気を入れ替える必要がある理由を考えることができる。	55.0	32.4	53.3
火山灰が積もった地層のつぶの特徴を説明することができる。	40.0	18.6	39.5
電気自動車に蓄えられた電気の変化について考えることができる。	50.0	32.4	45.9
三日月が見える時間が限られている理由について説明できる。	40.0	9.8	17.8
日光に当てていない葉にデンプンがあるかどうかを調べる理由を考えることができる。	40.0	17.6	23.9

出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率
おもりがばねを引く力を矢印で表すことができる。	40.0	13.8	36.5
コケ植物とシダ植物を分類する特徴を理解している。	60.0	37.5	61.0
ばねを引く力の大きさとばねののびの関係をグラフに表すことができる。	70.0	53.8	78.5
花の中心にめしべがあることを理解している。	60.0	41.3	57.5
岩石のスケッチの正しくない描き方を指摘できる。	70.0	55.0	69.9

出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率
モノグリセリドと脂肪酸の吸収のされ方について理解している。	40.0	24.0	31.2
誘導電流について理解している。	40.0	22.4	33.2
太陽光パネルのつくりから考えられることを指摘できる。	40.0	29.6	37.2

<p>7年</p>	<p><「Hi, English !」を通して></p> <p>(1) 定着状況の概要 総合正答率が 87.9 と前年度全国正答率(85.9)より 2 ポイント上回り、良好な状況である。</p> <p>(2) 具体的な課題 基本的な英文の理解が全国正答率に近く、課題が見られる。</p> <table border="1" data-bbox="794 271 1465 472"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>校内正答率</th> <th>市町村正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本的な英文の理解</td> <td>83.6</td> <td>83.7</td> <td>81.4</td> </tr> <tr> <td>日常会話の理解</td> <td>92.2</td> <td>91.3</td> <td>88.9</td> </tr> <tr> <td>質問に答える力</td> <td>90.5</td> <td>88.7</td> <td>85.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 課題の原因として考えられること さまざまな英文を聞いて、瞬時に理解することが難しい。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 7年生の2学期以降の授業において、英語での指示やリスニング問題に多く触れて慣れさせるとともに、英文の作り方を確認していく。</p> <p>(5) 次年度の数値目標 全ての問題において、全国正答率を上回るようにする。</p>	出題のねらい	校内正答率	市町村正答率	全国正答率	基本的な英文の理解	83.6	83.7	81.4	日常会話の理解	92.2	91.3	88.9	質問に答える力	90.5	88.7	85.4
出題のねらい	校内正答率	市町村正答率	全国正答率														
基本的な英文の理解	83.6	83.7	81.4														
日常会話の理解	92.2	91.3	88.9														
質問に答える力	90.5	88.7	85.4														
<p>8年</p>	<p>(1) 定着状況の概要 全国正答率とほぼ同程度で、おおむね良好である。</p> <p>(2) 具体的な課題 長文の読み取り・場面に応じて書く英作文に課題が見られる。</p> <table border="1" data-bbox="794 891 1465 1086"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長文の読み取り</td> <td>58.8</td> <td>56.4</td> <td>60.5</td> </tr> <tr> <td>場面に応じて書く英作文 大問9(1)</td> <td>30.0</td> <td>19.4</td> <td>17.4</td> </tr> <tr> <td>3文以上の英作文</td> <td>51.7</td> <td>56.5</td> <td>57.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 課題の原因として考えられること 初見の英文を自分で読み取り、概要を把握する練習や英作文の練習が不足している。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 8年生の2学期以降の授業において、まとまった長文の要点を読む練習をする。また、英作文につなげる対話練習を取り入れていく。</p> <p>(5) 次年度の数値目標 全国正答率を下回った校内正答率の項目を上回るようにする。</p>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	長文の読み取り	58.8	56.4	60.5	場面に応じて書く英作文 大問9(1)	30.0	19.4	17.4	3文以上の英作文	51.7	56.5	57.8
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率														
長文の読み取り	58.8	56.4	60.5														
場面に応じて書く英作文 大問9(1)	30.0	19.4	17.4														
3文以上の英作文	51.7	56.5	57.8														
<p>9年</p>	<p>(1) 定着状況の概要 全国正答率と比較して全体的にやや低めで全体的に課題が見られる。36問中25問において全国平均を下回っている。記述問題5問中4問において全国平均を上回っている。</p> <p>(2) 具体的な課題 特に、語いの知識・理解の書くことと語法・語形・さまざまな英文の読み取りなどの読むことに課題が見られる。</p> <table border="1" data-bbox="794 1574 1465 1780"> <thead> <tr> <th>出題のねらい</th> <th>目標値</th> <th>校内正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>語形・語法を理解することができる。 (mostを使った最上級の文)</td> <td>60.0</td> <td>50.0</td> <td>64.5</td> </tr> <tr> <td>語形・語法を理解することができる。 (名詞的用法の不定詞)</td> <td>55.0</td> <td>45.2</td> <td>57.7</td> </tr> <tr> <td>単語を正しく書くことができる。(くもりの)</td> <td>60.0</td> <td>52.4</td> <td>64.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 課題の原因として考えられること 単語を具体的に書く練習が不足している。また、初見の英文を聞いたり、読んだりして概要を把握する練習および英文とグラフを比較しながら読む練習が不足している。また、教科書の本文を読む際に、代名詞の意味を十分に理解して確認できていないことが考えられる。</p> <p>(4) 課題解決のための方策 単語を書く練習および、教科書以外のまとまった長文の要点を読む練習、代名詞の意味を確認する発問を行い、理解力を高める。また、英文とグラフを比較しながら読む練習をする。</p>	出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率	語形・語法を理解することができる。 (mostを使った最上級の文)	60.0	50.0	64.5	語形・語法を理解することができる。 (名詞的用法の不定詞)	55.0	45.2	57.7	単語を正しく書くことができる。(くもりの)	60.0	52.4	64.2
出題のねらい	目標値	校内正答率	全国正答率														
語形・語法を理解することができる。 (mostを使った最上級の文)	60.0	50.0	64.5														
語形・語法を理解することができる。 (名詞的用法の不定詞)	55.0	45.2	57.7														
単語を正しく書くことができる。(くもりの)	60.0	52.4	64.2														